

矢羽クラフトが象徴する 津山杉の工房

もくもくハウス

登米市津山町



もくもくクラフト教室
(5枚900円)、ペンスタンド
ダストボックス(1,200円)、
10枚以上のグループ単位で
(2週間前までに予約)
(人数についてお問合せのこと)
所要時間: 約40分



6&7:規格材を木目がなめに走るように接着剤で圧着し、カット。木製品によって矢羽の幅を3cm~40cmに調整。プレス機に1枚づつ積み重ね、さらに板状に切り断して完成と、時間をかけて丁寧な仕事が展開されている。杉矢羽集成材の制作・加工工場

8&9:仕上げで磨きをしているところ。そして自作の木の小皿を手にする工人の菊地さん

わりがそこかしこにうかがえる。
デザイン性の高さも、長く人気
を集めている理由の一つで、美しく温もりを感じる品々は手にと
て触りたくなる魅力にあふれてい
る。道の駅も併設された店舗へ、
次々と人が訪れる。思いいいに商品
を選ぶ姿が見られた。

15人いるという工人の一人、菊地

さんは、「木好きで、木工が好きで、樂

しみながらやってきたら、あつと

いう間に年月がたった感じだねえ」

関係の仕事をしていて、副業として
木工クラフトを始めたとのこと。
「木が好きで、木工が好きで、樂
しみながらやってきたら、あつと

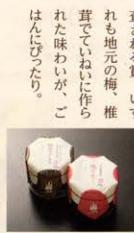
いう間に年月がたった感じだねえ」



豊かな緑に囲まれたロケーションの「もくもくハウス」



もくもくハウス
登米市津山町楢山字細屋26-1
TEL:0225-69-2341
入館料無料
9:00~17:00
12月30日~1月1日休館



平成25年のグッドデザイン賞に選ばれた新商品の「梅好き」と「椎茸グルメ」

「梅好き」「椎茸グルメ」

もくもくハウスの新商品

と笑顔を見せる。地元の中学生にも指導を行っているそう。原木から乾燥1年、製材1年、荒げずり1年、そして仕上げと、1つの商品に3年がかりだ。菊地さんが作るおわんは、手に器。まさにそのまま温もりは手にも目にもやさしい。もくもくクラフトには体験教室もあり、小物入れやペンスタンドなどを作って、自分の道具と

長く使うことができる。

今は注文に追われている状態だといふ。「震災後は長く使われる食器として、特に見直されてきたね」。

本物の温もりは手にも目にもやさしい。もくもくクラフトは、デザインだけでなく、誕生ストーリーや生活で使用されるイメージも含め、審査される賞。いずれも地元の梅、椎茸で、いかに作られた味わいが、ごはんにぴったり。

半年後に、各方面的支援のもとにオープンしたのが仙台駅東口の「アンテナショップ」、もくもくハウス仙台店。これは商品開発の拠点でもあり、「梅好き」「椎茸グルメ」は平成25年のグッドデザイン賞にも選ばれた。同賞はデザインだけでなく、誕生ストーリーや生活で使用されるイメージも含め、審査される賞。いずれも地元の梅、椎茸で、いかに作られた味わいが、ごはんにぴったり。



1:自分でもくもくクラフトも作れる、体験教室の様子
2:トレードマークでもある矢羽櫻様の幾何学デザイン
3~5:美しくて温もりを感じる品々

仙台から約1時間半、緑の山並みに囲まれた津山町。ここにもくもくハウスが誕生したのは昭和57年。面積の82%が山林で、昔から津山杉の産地として栄えてきた林業の町だ。

林業が低迷する中、津山杉を活用して地域を活性化させたいと取り組みの中から、独自加工の杉矢羽集成材が生まれた。その美しい模様をいかした木工クラフトが、津山の職人たちの手によって誕生。時代が変わっても、変わらぬ人気が現在まで続いている。

「今年で32年になります。矢羽の街は、林業が低迷する中、津山杉を活用して地域を活性化させたいと取り組みの中から、独自加工の杉矢羽集成材が生まれた。その美しい模様をいかした木工クラフトが、津山の職人たちの手によって誕生。時代が変わっても、変わらぬ人気が現在まで続いている。

今年で32年になります。矢羽

クラフトなど、この土地の技術を絶やさないようにして、ふるさとの元氣をこれからも継承していくたいと思っています」と、もくもくハウス店長阿部幸恵さん。

代の若い人から、60代の人までが働いていて、取材時も20代の女性が仕上げ塗装を黙々と行っていた。ここで生みだされるクラフト商品は、食器から玩具、家具までさまざまだが、その一つひとつに、天然木材に対する職人のこだ

工夫、木目合わせをくり返す。時間が根気が必要で、手を使い、心をかたむける仕事だ。20代、30代の若い人から、60代の人までが働いていて、取材時も20代の女性が仕上げ塗装を黙々と行っていた。ここで生みだされるクラフト商品は、食器から玩具、家具までさまざまだが、その一つひとつに、天然木材に対する職人のこだ